

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 3 回相模原市公立特定教育・保育施設あり方懇話会				
事務局 (担当課)		健康福祉局こども育成部保育課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 4 1 (直通)				
開催日時		平成 2 8 年 9 月 2 6 日 (月) 午後 3 時 ~ 午後 5 時				
開催場所		職員会館 4 階第 1 会議室				
出席者	委員	5 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	7 人 (保育課長ほか 6 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 あいさつ 3 委員紹介 4 第 2 回あり方懇話会の会議録について 5 資料説明・意見聴取 津久井地域における公立保育所、公立幼稚園等のあり方について <公立幼稚園編> 6 その他 7 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

- 1 開会
- 2 あいさつ
保育課長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 第2回あり方懇話会の会議録について
- 5 資料説明・意見聴取

津久井地域における公立保育所、公立幼稚園等のあり方について〈公立幼稚園編〉平成21年3月の「相模原市立幼稚園のあり方懇話会検討報告書」のまとめ以降の状況について伺いたい。

検討報告書のまとめ以降の状況については、資料2の「4 今後の方向性」のからに状況の変化について挙げているところである。なお、検討報告書の内容について各地域や保護者へ説明を行った際は、地域の幼稚園としての存在意義などについて御意見をいただいていると承知している。

人員が手厚く配置され、人件費や運営費が大きくかかっているとすると、税の使われ方として不公平感を感じる。公立幼稚園がまったく不必要だというわけではないが、縮小化していくことも必要ではないか。

私立幼稚園では、全ての園で預かり保育を実施しており、就労している保護者のニーズにも対応している。預かり保育を行っていない幼稚園は市内の私立幼稚園にはない。

ふじの幼稚園では、保護者の希望と、私立幼稚園が地域に存在しないという状況を踏まえ、9月から一時預かり事業を開始したところである。城山幼稚園での実施については、ふじの幼稚園の実施状況や周辺の私立幼稚園の実施状況などを踏まえて検討したいと考えている。

今後就学前児童数が増えていくことはないと思われるが、藤野地域において、1号から3号までを預かる認定こども園に移行した場合は、現在家庭で保育されている児童の利用が増えるなどして、利用児童数が増えることは考えられるか。

認定こども園に移行することによって利用児童数が増えるかどうか現時点では判断できないが、豊かな自然環境の中での子育てを希望する保護者もいるので、そういった需要による利用の増加も一定程度考えられる。また、認定こども園への移行については、自然災害の危険性や、施設・園庭の状態など各地域の状況により、公立保育所と公立幼稚園を併せることによって認定こども園に移行するという方法も、選択肢としては考えられるのではないか。

資料2の「状況の変化」の中で特別な支援を必要とする児童等の増加が挙げられ

ているが、課題を整理した結果、新たな機能の拡充が必要となった場合は、どういった機能をどの場所に持たせるのか検討しなければならない。

城山中央保育園は昭和49年建築で老朽化が進んでいると思われるが、建替え等を検討する場合には、土砂災害警戒区域に含まれている城山西部保育園との兼ね合いを検討する必要があるのではないかと。

公立幼稚園について、認定こども園に移行するなどして受入れの間口を広げる等した場合には、どんなニーズがあり、どういった対応が必要になるのか、リサーチしておく必要がある。また、必要な施設改修等も行う必要があるのではないかと。

仮に城山幼稚園の運営から手を引くとなった場合、単に廃止とするのか、別の機能を付加した施設として運営していくのかといった検討が必要になるのではないかと。その場合の機能として、増加している特別な支援を必要とする児童の受け皿とする方向性も考えられるのではないかと。

公立幼稚園が、そのまま残るのか、統合または縮小するのか、今後どうなるにしても、子どもや保護者にとってどんなメリットがあるのかを示していくことに加え、働く職員にとってのメリットも示していく必要があるのではないかと。

今回の資料の中で、津久井地域の公立保育所・幼稚園は、ほぼ小学校に近い位置にあることが分かり、今後、小学校を中心として子ども・子育ての拠点になっていくべきではないかと思われる。

公立幼稚園の幼稚園教諭については、新規採用はしているのか。

新規採用はしていないが、平成27年度から保育所・幼稚園間で人事交流を行っている。

今後の方向性としては、公立幼稚園が幼稚園単独で残っていく考えはないという理解で良いか。

ここでは、地域のニーズや地理的状況をもとに、他の公立保育所を含めた複合化や認定こども園への移行について検討する旨の案をお示ししているものだが、公立としての役割についてなど、幅広い御意見をいただき、検討していきたいと考えている。

本日の懇話会に出席するにあたって、城山幼稚園に通園している複数の保護者に状況を確認した。新しく城山幼稚園に通うことになった保護者は、母親が当面就労する予定がなく、城山幼稚園は多くの保護者が行事等に積極的に参加している園であるため、子どもと一緒に幼稚園生活を楽しまたいという声があった。また、上の子の時に城山幼稚園の良さを知って、下の子も城山幼稚園を選ぶ家庭が多い一方で、下の子のときに城山幼稚園を選ばなかった方については、3歳児の受入れがないことや、通園バスがないことで、やむを得ず私立幼稚園を選んでいる家庭もあった。

財政面の課題はあるものの、地域で生まれた子どもたちの育つ場所は必要。私立

施設がなく、他の選択肢が限られている状況があるとすれば、公立幼稚園を単に廃止するのではなく、集約化や複合化するなど効率化できることを行ったうえで、維持・存続していく必要があるのではないか。

9月からふじの幼稚園で一時預かりを始めたということだが、今後利用状況等を確認し、保護者がどういったことを求めているのか、幼稚園として必要な機能は何なのかといったことを確認することが必要ではないか。

5 その他

6 閉会

以 上

相模原市公立特定教育・保育施設あり方懇話会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	出欠席
1	板倉 華代	相模原市立城山幼稚園くすの木会会長	出席
2	内田 紀子	相模原市私立保育園園長会会長	出席
3	川崎 永	一般社団法人 相模原市幼稚園協会会長	出席
4	園田 巖	東京都市大学人間科学部講師	出席
5	戸塚 英明	社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会会長	欠席
6	鳥山 小夜子	相模原市立相模原保育園保護者会会長	欠席
7	山本 優子	相模原市立津久井中央保育園保護者会会長	欠席
8	吉岡 日三雄	相模女子大学教職センター長・特任教授	出席

（敬称略 50音順）